

平成28年度大垣市総合教育会議 会議録

- 1 **と き** 平成28年7月29日（金）13:30～14:45
- 2 **と ころ** 大垣市役所2階 市長室
- 3 **出席者** 小川敏市長、河合保孝委員長、堀哲也委員、山川隆司委員、平野晶子委員、山本讓教育長、
- 4 **事務局** 上野企画部長、守屋子育て支援部長、安田事務局長、渋谷地域創生戦略課長、川合子育て支援課長、馬淵庶務課長、立川学校教育課長、細江教育総合研究所長、伊藤庶務課主幹、川瀬庶務課主査
- 5 **傍聴者** なし
- 6 **議 題**
- (1) 英語教育の推進について
 - (2) ふるさと大垣科の推進について

7 会議録

開会 13:30

発言者	発言内容
馬淵 庶務課長	皆さん、こんにちは。本日は、大変、お忙しいところ、平成28年度大垣市総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私、本日の司会を務めさせていただきます、教育委員会事務局庶務課の馬淵でございます。よろしくお願いたします。それでは、はじめに、小川敏大垣市長より、ごあいさつ申し上げます。
小川 市長	皆さん、こんにちは。本日は、総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。 さて、ご存じのとおり本会議は、教育委員会は独立した行政委員会の1つであり政治的には中立でございますが、教育委員会制度改革の一つとして、首長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、教育課題を共有

発言者	発言内容
	<p>し、より一層民意を反映した教育行政を推進するために設置されたものでございまして、学校教育の分野につきましては、「グローバル社会を生きる人材の育成」を施策として掲げ、小学校からの英語教育の充実や、ふるさと大垣科の推進に取り組んでいただいております。</p> <p>私も商社出身で、海外勤務も経験しましたが、読み書きの能力は、アメリカでも遜色なかったと思いますが、会話となると、格段に違いがあったなと思います。また、現在はグローバル社会であり、アメリカだけではなく、中国、東南アジア、世界各国でコミュニケーションを図る上では、英語が共通語になっておりますので、英語教育、とりわけ英会話について、早い段階で慣れておくということは、大切なことではないかなと思います。</p> <p>また、それと同時にグローバル化した社会であるからこそ、自分が生まれ育った地域社会の歴史や文化、特産品などを、自分で述べるような人材育成も大切なのではないかなと思います。</p> <p>今回、「飛び出せ！イングリッシュ大垣推進事業」ということで、子ども達が大垣の歴史や文化を英語で語る体験事業を実施するところでございます。</p> <p>本日の会議では、現在、学校の授業で行っている「英語科」と「ふるさと大垣科」のこれまでの取り組みと今後の方向性などについて協議してまいりたいと存じます。教育委員の皆様には、それぞれのお立場から、忌憚のないご意見やご提言をいただくとともに、適切なご審議を賜りますようお願い申し上げます、あいさつとさせていただきます。それでは、皆様、よろしく願いいたします。</p>
馬淵 庶務課長	<p>ありがとうございました。次に、次第の3、「出席者の紹介」に移らせていただきます。お手元の会議資料の1ページに、「平成28年度大垣市総合教育会議名簿」をつけさせていただいておりますので、名簿の順にご紹介をさせていただきます。</p> <p><構成員の紹介></p> <p>続きまして、事務局を担当いたします職員が、名簿の順に自己紹介いたします。</p> <p><事務局職員の自己紹介></p>
馬淵 庶務課長	次に、次第の4、「議題」に移らせていただきます。これより進行につきましては、小川市長をお願いいたします。

発言者	発言内容
小川 市長	<p>それでは、議長を務めさせていただきます。皆様方のご協力により、会議がスムーズに運営できますよう、よろしくお願いいたします。議事に入ります前に、本日の会議につきましては、個人情報など非公開とする案件に該当するような事案がないことから、会議は公開とさせていただきます。また、本日は傍聴人はいらっしゃいません。</p> <p>それでは、これより、議事に入ります。はじめに、議題の(1)、「英語教育の推進について」を、事務局から説明をお願いいたします。</p>
小倉 学校教育課参事	資料No.2－英語教育の推進について
小川 市長	<p>ただいま、資料のご説明をいただきましたが、これにつきまして、ご意見やご質問があればお願いいたします。</p>
河合 委員長	<p>国の施策に先行して、英語教育を進めていただいていることは、とてもよいことだと思っております。小学校の段階では、例えばコミュニケーションを図る楽しさの実感のように、「話す」「聞く」と「英語への楽しみ」という部分が大きく前面に出ており、英語に慣れ親しむ外国語活動から、「話す」「聞く」という能力を身に付ける教科英語までの小学校英語は素晴らしいと思います。ただ、中川小や小野小学校の研究指定校の実践のように、5・6年生になると「読む」と「書く」の技能が、中学校への円滑な接続のための段階的な学習として入ってくることは、時期尚早ではないかと思えます。段階的な指導がどれくらい入ってくるのかよく分かりませんが、先ほどの授業風景の映像でも見られましたように、「話す」「聞く」の学習で本当に楽しそうに授業を受けている、そういった姿が、小学校の英語教育の段階ではないかと感じています。</p> <p>中学校の英語教育についてですが、まず1点目は、ただでさえ学校の先生は働きすぎではないかと思うくらい忙しい中、今後の小中連携の推進や授業改善にあたって、先生に対して配慮ができるのかどうか心配です。研究指定校の取り組みの中で、中学校に円滑に接続するためのカリキュラムを作成していますので、そちらとも関係してくるかと思えます。2点目は、客観的な見届けの部分ですが、パフォーマンステストによって小学校から行っている「話す」「聞く」の能力を見るという点では、良いことだと思えますが、中学3年生が全員外部試験を受験し、英検3級相当の生徒を50%以上にするということについては、学校</p>

発言者	発言内容
	<p>教育の中で、このような数値目標を掲げることが、中学校3年生の段階で本当に必要なのだろうかと思います。たしかに高校受験、大学受験では、このような部分も必要になるかと思いますが、今回の中学校の英語教育の推進の中で、客観的な見届けというもの、こういうことなのかという点で、違和感があります。スライドにもありました、グローバル社会に生きる人材の育成については、「伝わった」「分かった」「楽しい」という、この3つが基本であって、小学校から中学校を通じて、そのことが備われば、それが一番よいことではないかと思います。</p>
小川 市長	<p>「読む」「書く」というのは、「話す」「聞く」とは全く別の「読む」「書く」ことなのか、「話す」「聞く」をしていることを、読んだり書いたりすることなのか、どちらでしょうか。</p>
小倉 学校教育課参事	<p>研究指定校において、文字についてもどのように導入すると、中学校への円滑な接続になるのかということで、実践を進めておりますが、自分で一から英文をスラスラと書くとか、英文ばかりで書いてあるものを読むということではなく、絵に対して文字がついているものを、絵と音声と文字をつなげたりとか、自分が好きなスポーツを書き写したりするところから、文字に対して少しずつ触れる実践を進めており、つまり、授業で行っていることとつながっていることに対して、文字を見るという実践をしているところです。</p>
小川 市長	<p>「話す」「聞く」の学習をしていることについて、その範囲内で「読む」「書く」ができるようにするということですね。</p>
小川 市長	<p>モジュール授業を各担任の先生が行っていくことになると、先生も大変ですね。</p>
山本 教育長	<p>今のお話のように、教師の負担をできるだけ軽減するような方向を検討しており、モジュール授業に対する視聴覚教材を用意しながら、進めることができると考えております。また、モジュール授業の最後の5分くらいを担当の教師が中心となって、見た映像と関連のある指導を行いますので、現在、その部分についての市全体で共通のカリキュラムを作成しております。それでも新たな負担にはなるとは思いますが・・・。</p>
河合 委員長	<p>カリキュラムについては詳しく分かりませんが、モジュール授業を行うことによって、休み時間を削ることにはなっていないのでしょうか。</p>

発言者	発言内容
立川 学校教育課長	1日の中に、読書や漢字、計算の時間がありますので、そういった時間を併用しながら、どの時間に位置付けると現状の学校生活の負担にならないかということ、検討しているところでございます。
山本 教育長	現在、多くの小学校で、毎日、朝の会終了後に、読書などの時間を設けております。その時間帯に英語のモジュール授業を行うと、当然、従来行ってきた読書などができなくなります。英語のモジュール授業の時間分だけ、毎日15分、純増させることは難しいと思いますので、何かを増やせば、何かを削る形になってくるかと思えます。
河合 委員長	自分が子どもの頃は、休み時間がとても楽しかった思い出があります。
山本 教育長	おそらく、休み時間を削ることにはならないと思います。
小川 市長	休み時間の子ども達の交流も、教育の一環なので、それはそれで大切にしていきたいと思えます。
山川 委員	私もアメリカに留学したことがありますが、読み書きの能力は、それほど、引けを取らないのですが、コミュニケーションには非常にハンディキャップがありました。英語を学び始める時期についてですが、日本語が正しく書けるようになってから、英語も話せるようになるという教育が大切なのかなと思えます。それが小学校の3年生ごろかなと思えます。コミュニケーションは大切なことなので、文法はともかく、聞けて話せるというところから、英語教育に入っていただくとよいかと思えます。一方で、聞いたり話したりするコミュニケーションは、英語だけに限らず、必要にせまられればなんとかかしていけるもので、書けないけど話せるという人も結構いますが、両方の能力をバランスよく作り上げていくことも大切だと思えます。学校の先生は大変になるので、その研修も含めて推進していただければと思えます。
小川 市長	英語教育をいつから始めるのがよいのかということについては、発音に慣れるためには、早い方がよいのかもかもしれませんが、母国語をしっかりと学ぶことは大切だと思えますので、日本語があやふやな段階から始めることがよいのかどうか、個人差もあるでしょうが、難しいところだと思えます。
小川 市長	モジュール授業は、小学校も中学校も担任の先生が行うのでしょうか。
山本 教育長	中学校ではモジュール授業は行いません。小学校だけで、担任の教師が行います。

発言者	発言内容
山本 教育長	英語教育を始める時期については、基本的には、日本語をしっかり学んでからと考えております。教育課程においても、中学年ごろまでは、国語の時間数が多くなっており、文部科学省も国語を大事にしております。また、次期学習指導要領でも、3年生から外国語活動が始まる予定ですが、そのようなところからも、今のところ小学校3年生ぐらいから始めるのが、一番妥当ではないかと考えております。
小川 市長	今回の「飛び出せ！イングリッシュ」の応募は50人ほどで、もう少し応募が多いのかなと思っておりましたが、子どもに少し気おくれ感があるのかなとも思いますので、もしそうであれば、学校で英語に慣れ親しむという環境づくりも必要なのかなと思います。
平野 委員	子ども達が外国人に話しかけられることに対する慣れも大切なのではないかと思います。ホームステイの受け入れをしたことがあります。外国人は顔が大人っぽいので、見ただ目で躊躇してしまうところがありますが、話してみると日本人と何ら変わらないので、慣れも必要だと感じています。
小川 市長	地方へ行けば行くほど、外国人は少ないので、気おくれや物怖じをしてしまうことがあります。意味を理解せず、ただ、英語を聞いているだけでは音楽を聞いていることと同じになってしまうので、そういう意味で、話す能力につながるような、英語に触れあう時間を増やしていくことは大切だと思います。
河合 委員長	外国人の外部講師を考えてらっしゃいますか。
山本 教育長	小学校では、ALTが隔週で授業に入り、一緒に授業を行っております。他の市町より、恵まれていると思っておりますが、予算的にも結構負担になりますので、基本的には、今年度と同じ体制で、ALTを配置して進めていきたいと思っております。
堀 委員	先ほどの映像を見ると、話すときに身振り手振りを交えて話をしていますが、日本人は、そのような習慣がないので、表現の仕方の違いも学ばないと、恥ずかしさなど気おくれしてしまう部分があるのかもしれないと思います。修学旅行の時に外国人に話しかけて道案内をするということを聞いたことがありますが、そのようなことも慣れるということにつながることであり、外国人と触れ合うことは大切なことだと思います。 今はネットが普及し、日本にいながら世界中とつながる環境になって

発言者	発言内容
	<p>いますが、今の段階では、まず、楽しく英語と触れ合える環境ということに重点を置いて進めていただけるとよいと思います。</p>
小川 市長	<p>早くから英語教育を始めることによって、早くから英語に対する嫌悪感を持ってしまっは逆効果ですよね。</p>
山川 委員	<p>物怖じしたりすることも含め、静かに話しかける、じっくり考えて話す、その中に奥ゆかしさもあるということも日本人の文化だと思います。外国人と同じように英語で話せるようにさせることで、嫌悪感を抱かれるなど上滑りするようなことだと困るので、そのあたりにも配慮をしていただけるとよいと思います。</p>
小川 市長	<p>それでは、その他にご発言もないようですので、今後も引き続き進めていただきたいと思います。</p> <p>次に、議題の(2)、「ふるさと大垣科の推進について」、を事務局から説明をお願いいたします。</p>
清水 学校教育課主任指導主事	<p>資料No.3ーふるさと大垣科の推進にについて</p>
小川 市長	<p>ただいま、資料のご説明をいただきましたが、これにつきまして、ご意見やご質問があればお願いいたします。</p>
河合 委員長	<p>ふるさと大垣科の取り組みは、本当に素晴らしいと思っております。1年目から先生方にはよく理解をしていただき、授業をしていただいていると思います。その中で、課題の中にもありましたが、外部講師の方の授業には、学校内の授業と学校外での授業があると思いますが、できれば、教室の中の聞くだけの授業でなく、実際に体験するという意味で、学校外の授業を増やしていただけるとよいと思います。</p> <p>それから、担任の先生と授業に入る外部講師の方の立ち位置についてですが、外部講師を私自身、やらせていただいたことがあります。自分の知識をどんどん話して、講演のような形になってしまうなど、つつい熱が入ってしまうことがありますので、授業の中での連携をしていただくとよいかと思ひます。</p> <p>また、校区のよさというところで、大垣市全体も学びますが、さらに小さな地域の自分の住んでいる身近な校区を学ぶと、より興味がわき、これまで以上にふるさと大垣科が定着していくと思ひます。</p>

発言者	発言内容
小川 市長	外部講師との連携の課題とは、具体的にはどのようなことでしょうか。
清水 学校教育課主任指導主事	俳句については、俳句協会の方に依頼しておりますが、どちらかというとふるさと分野について、講師の方にサポートしていただきたいと思っております。というのは、社会科を専門としている教員ばかりではないことや、市外から勤務している教員もいることなど、大垣の歴史や文化について詳しくない教員もいるためです。そのようなことから観光ボランティアの方々等、連携を深めていきたいと思っておりますが、なかなか、打合せの時間が取れない、また、打合せの仕方がよく分からないといった現状があります。
小川 市長	外部講師の方は先生ではないので、双方向で子ども達をうまく誘導していくノウハウがないのかもしれませんが。私も、一方的に話をすることはできますが、子ども達に語りかけながら、反応を見て、また話しかけていく、そういったことができれば、授業の内容が濃くなっていくのでしょね。
山本 教育長	俳句分野でお世話になる俳句協会の方は、自分の型を持っていますので、子ども達に教えようという形になってしまいがちです。また、ふるさと分野では、俳句協会のような人材リストがないため、校区のことを詳しくご存知の方で、授業に来て指導していただけるような方を、まずリストアップしていくことが大事になっています。
山川 委員	大垣は歴史があり、いろいろまともりもあり、大垣がふるさとである人は、市外や県外の方からは、うらやましく思われています。また、大垣市内にはいろいろな名所がありますが、他の校区にはあまり行かないものなので、他の校区を自分達の校区と比較して学ぶことは、自分達の校区のよさを知る上で、大切なことだと思います。
小川 市長	ふるさとを学ぶことは、海外に行った時も、名物や、町の特色など、英語で地域文化を語るができるようになり、英会話能力向上のための一つのツールにもなると思います。そういう意味でも効果があるかと思えます。
堀 委員	現在の子供達達は、将来的には地域の担い手になるわけですが、今、自分達の住んでいる地域の歴史をふまえて将来を考えることができる授業というのは、人口がどんどん減少していく社会の中では、非常に大事になってくるのではと思います。また、これらの成果はすぐに出るわけではなく、10年・15年後に、あの時の授業があったからこそ、そ

発言者	発言内容
	<p>の地域の活動につながっているということになるため、地道にこのような授業を行っていくことは必要だと思いますし、子ども達だけでなく、広く市民にも広がっていくと、地域創生にもつながっていくのではないかと思います。</p>
小川 市長	<p>それでは、特にご発言もないようですので、引き続き進めていただきたいと思います。</p> <p>議題については以上です。</p>
小川 市長	<p>次に、次第の5「その他」でございますが、全体を通じて、何かございましたらご発言をお願いいたします。</p>
小川 市長	<p>グローバル化社会と冒頭にも申し上げましたが、いい意味でも悪い意味でも今後はそういう社会になっていきますので、それに対応した人づくりが大切になってきます。そう意味で、大垣市としても特色を出して、しっかりと進めてまいりたいと思います。</p> <p>それでは、ご発言もないようですので、これをもちまして、議事を終了させていただきます。</p>
馬淵 庶務課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>これをもちまして、本日の会議を終了させていただきます。</p> <p>本日は、ご出席賜り、ありがとうございました。</p>

閉会 14 : 45